

能への誘い

久田 陽嗣ほか

舞囃子の上演にお能のおはなしを添えて。
能面公募展入賞作品を用いての能面のおはなしや装束着付け体験もあります。



狂言への誘い

井上松次郎

狂言についてのおはなしのあと、舞台上で狂言の所作を楽しく体験します。
また、狂言「雷」を上演します。

「雷」

雷 佐藤 融
業師 佐藤 友彦
地謡 井上松次郎
今枝 郁雄
鹿島 俊裕

鎌倉でやっていけなくなった薬師(医者)が、奥州(東北地方)へ下る途中、広い武蔵野の原野で夕立に合い、激しい雷鳴、稲光とともに、目の前に雷様が落ちて来ました。
腰を打って動けない雷様に治療を頼まれた薬師は、秘伝の妙薬を与え、早速鍼(はり)治療にとりかかります…。



写真:東野一二さん(東京都)作「武蔵」(第12回全国新作能面公募展 入賞)を使用します。

能楽鑑賞会 平成26年2月23日(日)

午後1時開場
午後1時30分開演
午後4時30分頃終了

[入場料]
一般 1,000円
小・中・高校生 500円

国指定重要無形民俗文化財
(福井県池田町)水海の田楽能舞

750年以上前、北条時頼公が池田を訪れた時、村人たちは田楽を舞い歓迎。そのお礼として時頼公より能舞を教わったのが始まりとされています。現在は、保存会員らにより毎年2月15日に池田町水海の鶴甘神社で、田楽4番(烏とび・祝詞・あまじゃんごこ・阿満)・能舞5番(式三番・高砂・田村・呉服・羅生門)が奉納されています。今回は田楽1番・能舞1番を特別に披露します。

狂言(和泉流)
「仏師」

すっぱ 井上松次郎
田舎者 佐藤 融
後見 佐藤 友彦

在所で持仏堂を建立した田舎者が、中に安置する御仏を買い求めに京の都へやってきます。
仏師を知らない田舎者が大声で仏師を探し求めるところへ、すっぱ(詐欺師)が声をかけ、自ら仏師になりすまし、まんまと仏像の制作、売買の契約をとりかわしましたが…。



写真:貫井重さん(東京都)作「乙」(第12回全国新作能面公募展 審査員特別賞)を使用します。

解説

高橋 暉一

能「紅葉狩」について。

能(観世流)
「紅葉狩」

前シテ	女	久田 陽嗣
後シテ	鬼神	
ツレ	侍女	松山 幸親 八神 孝充 吉沢 旭
ワキ	平維茂	高安 勝久
キ	従者	船元 正樹
ツレ	供女	今枝 郁雄
ア	末社ノ神	鹿島 俊裕
	笛	大野 誠
	小鼓	船戸 昭弘
	大鼓	河村総一郎
	太鼓	鬼頭 義命
	後見	前野 郁子 久田三津子
	地謡	梅田 邦久 祖父江修一 清沢 一政 高橋 暉一



秋も半ばの頃、所は信濃国(長野県)戸隠山へ、とある上臈が数人の侍女を連れて、紅葉狩にやって来て、山陰で酒宴を始めます。そこへ、鹿狩りに来た平維茂とその従者が通りかかります。そして、この山中での人影を不審に思い、従者に名を尋ねさせにやります。女達は、名を名乗りませんが、身分の高い女性の忍び遊びだということです。維茂は、その興を妨げないようにと、馬から降り、道をかえて通りすぎようとします。すると女達は、その心づかいにかえて感心し、維茂を引き留め、酒宴を共にするように誘います。維茂は断りかね、勤めに応じて盃を重ね、美女のまう見事な舞に見とれます。いつしか酔いがまわって維茂は寝入ってしまいます。女達はそれを見届けると、鬼の本性を現し、「目を覚ますな」といいて、山中に姿を消します。(中入)すると八幡八幡宮の末社の神が、維茂の前に現れ、神剣を授け、鬼神を退治するよう神勅を伝えます。目を覚ました維茂は、神剣を押しいただき、身支度をして待ち構えます。やがて山中に稲妻が光り、雷鳴がとどろいて騒然となります。そして本体を現した鬼女が襲いかかって来ます。維茂は刀を抜いて応戦、烈しい格闘ののち、ついに鬼女を斬り伏せます。その威勢はまことに立派なものでした。



写真(上):水谷 晴さん(東京都)作「若女」(第12回全国新作能面公募展 優秀賞)を前シテで使用します。
写真(中):松本幸男さん(大阪府)作「雷」(第12回全国新作能面公募展 最優秀賞)を後シテで使用します。

写真(上):後藤大秀さん(岐阜県)作「万福」(第12回全国新作能面公募展 秀作)をツレで使用します。
写真(中):海老原彰さん(鹿児島県)作「小淵」(第12回全国新作能面公募展 佳作)をツレで使用します。
写真(下):荒牧玲子さん(福岡県)作「小淵」(第12回全国新作能面公募展 入選)をツレで使用します。